

令和6年度第4回滋賀県総合教育会議

---

# 「中学生がスポーツに親しむ環境の整備について」 —中学校部活動地域移行を事例に—

黒澤寛己

びわこ成蹊スポーツ大学

# 中学校の部活動の現状・課題

## 【部活動の位置付け・実態】

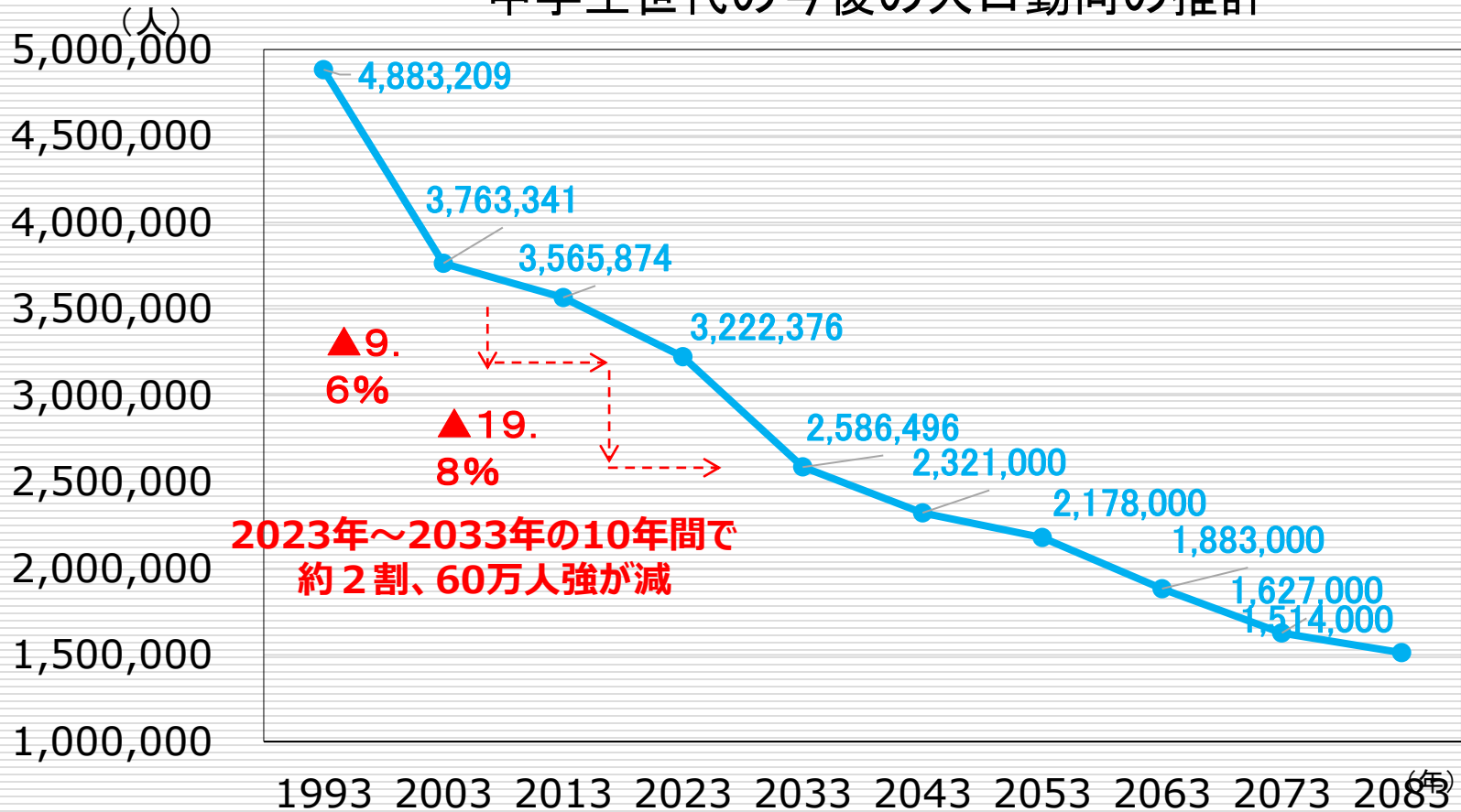
- 生徒の自主的・自発的活動だが、学校教育活動の一環として位置付け（「学習指導要領」の総則に明記）⇒学校文化として定着
- 約 6 割の生徒が運動部活動に参加（約 2 割の生徒が文化部活動に参加）
- 週 4 ～ 5 日、活動している部活動が多い（約 75%）

近年、少子化の進展、教員の働き方改革等により、従前と同様の形での運営が困難に・・・

# 少子化・人口減少の加速化

- 学校数の減少、それ以上に進む少子化で生徒数／学校はさらに小さくなる中、部活動は持続困難

## 中学生世代の今後の人口動向の推計



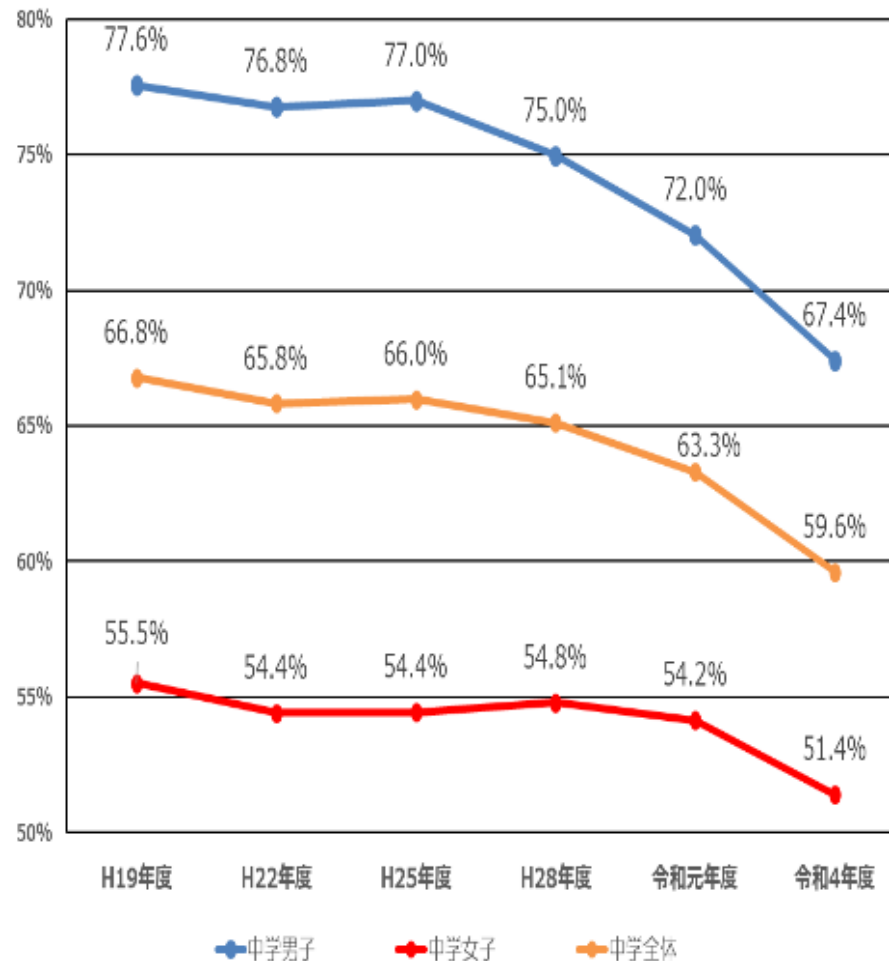
中学生世代の人口数は4月1日時点において12～14歳の者の数

厚生労働省作成「人口動態統計」月報（2023年4月）」により算出するとともに、将来の出生者数について、国立社会保障・人口政策研究所作成「日本の将来推計人口（令和5年推計）詳細結果表」の「1. 出生中位（死亡中位）推計」を基に算出。

# 運動部活動への参加率（中学生）

- 1運動部当たりの参加人数は近年減少傾向。運動部活動への参加率も近年減少傾向。

## 【運動部活動への参加率】



# 部活動の教育効果 「部活動と生徒指導」

吉田浩之(2009)

## 部活動の時間

### 部活動

1日2h × 週5日 = 週10h

週10h × 35週 = 年間350h

その他、土日祝、春夏冬休み

### 保健体育

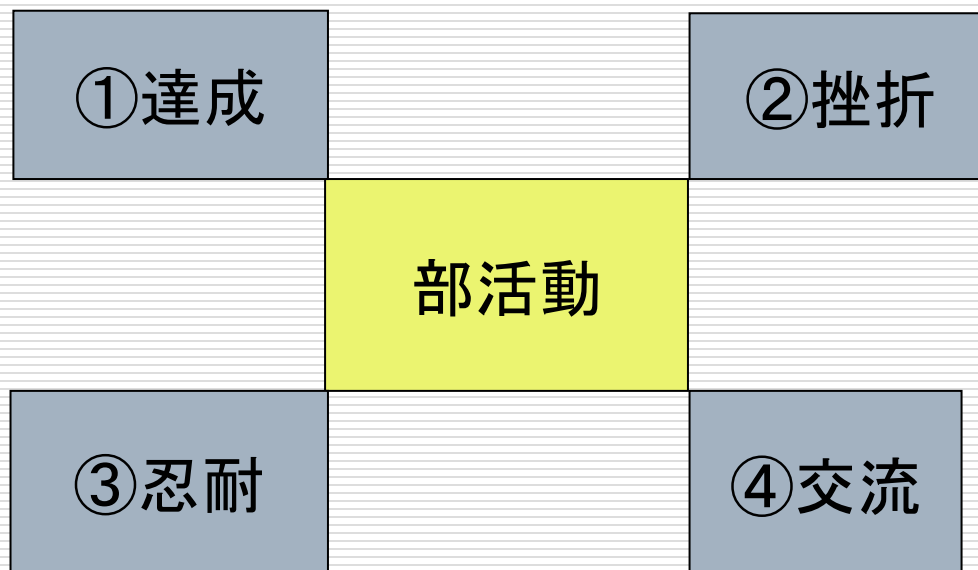
週3h × 35週 = 年間105h

## 部活動の3つの特徴

- ①目的・目標を持って、自主的・自発的に取り組む活動
- ②チームや他生徒とかがわり合いながら取り組む活動
- ③専門性や競技力の向上に多くの時間をかけて取り組む活動

# 部活動を通じて会得できる体験

---



黒澤・横山(2008)

# 部活動地域移行提言書のポイント

スポーツ庁2022(令和4)年

---

公立中学校の休日部活動を段階的に地域移行する。(令和5～7年)⇒以降は平日も検討する。

## 課題への対応

- 受け皿となるスポーツ団体の整備
  - スポーツ指導者の確保
  - 地域のスポーツ団体等も参加できる大会実施
  - 会費・保険料の支援
-

# 「受け皿」の課題

## 地域の実施主体

---

- 総合型地域スポーツクラブ
- スポーツ少年団
- クラブチーム ○プロスポーツチーム
- 民間事業者 ○フィットネスクラブ
- 大学等

◎学校関係の組織・団体

(地域学校協働本部・保護者会等を想定)

---



# 部活動地域移行の歴史 (古くて新しい政策課題)

---

1970年代 社会体育への移行

(クラブ活動・部活動の時代)

1995年～ 学校5日制(土・日の活用)

2000年～ スポーツ振興基本計画

総合型地域スポーツクラブの全国展開

(中学校区に1つのクラブ設立)

部活動を代替する、受け皿が不十分！

---

# 部活動地域移行の実践研究

## びわこ成蹊スポーツ大学の取組み

### 研究の目的

- ①受け皿組織としての大学の妥当性・実行可能性
- ②指導人材(学生)の確保・質的保証

# 部活動地域移行実証研究

## スポーツ庁

2021年度から 地域部活動推進事業

## 経済産業省

2021年度から、「未来のブカツ」フィージリングスタディ事業(FS 事業)全国10都市

**① 部活動の地域連携って？**

複数校でまとまって一つの部活動とする合同部活動の導入や、部活動指導員等の地域の人材を活用することにより、あくまで学校で運営・実施しつつも、生徒の活動機会を確保するものです。

**② 部活動の地域移行って？**

地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替するものです。学校とも連携しながら、多様な活動を、可能な限り低廉な会費で実施します。

**③ 部活動と「地域クラブ活動」はどこが違うの？**

| 学校部活動  | 地域クラブ活動   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>学校が主体となつて行われる部活動</li> <li>学校の中で実施</li> <li>複数校でまとまって一つの部活動を行う合同部活動の導入や、部活動指導員等の地域の人材を活用すること(地域連携)を推奨</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域が主体となつて行われる活動</li> <li>市民体育館、公民館、学校体育施設など、多様な場所での実施</li> <li>多世代・多種目な活動</li> </ul> |
| <p>学校単位の部活動 例:○○中学校での部活動</p>   | <p>地域クラブ活動 例:○○市町村での地域クラブ活動</p>   |

**部活動改革ポータルサイト** ~学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に向けて~  
[https://www.meet.gsj.jp/sports/?\\_menu=sports/mcwatag01/fst/1379413\\_00003.htm](https://www.meet.gsj.jp/sports/?_menu=sports/mcwatag01/fst/1379413_00003.htm)  
 室伏長官からのメッセージや部活動に関するガイドライン、全国の事例、各種制度、FAQ、広報素材等を紹介しています。 部活動改革

経済産業省 地域×スポーツクラブ産業研究会 最終提言  
**「未来のブカツ」ビジョン (概要版)**

経済産業省

未来のブカツ SPORTS

# 実践研究① 2021年度

---

経済産業省実証事業

滋賀県高島市との実践研究

## 滋賀県高島市（人口約5万人）の事例（2021年度）

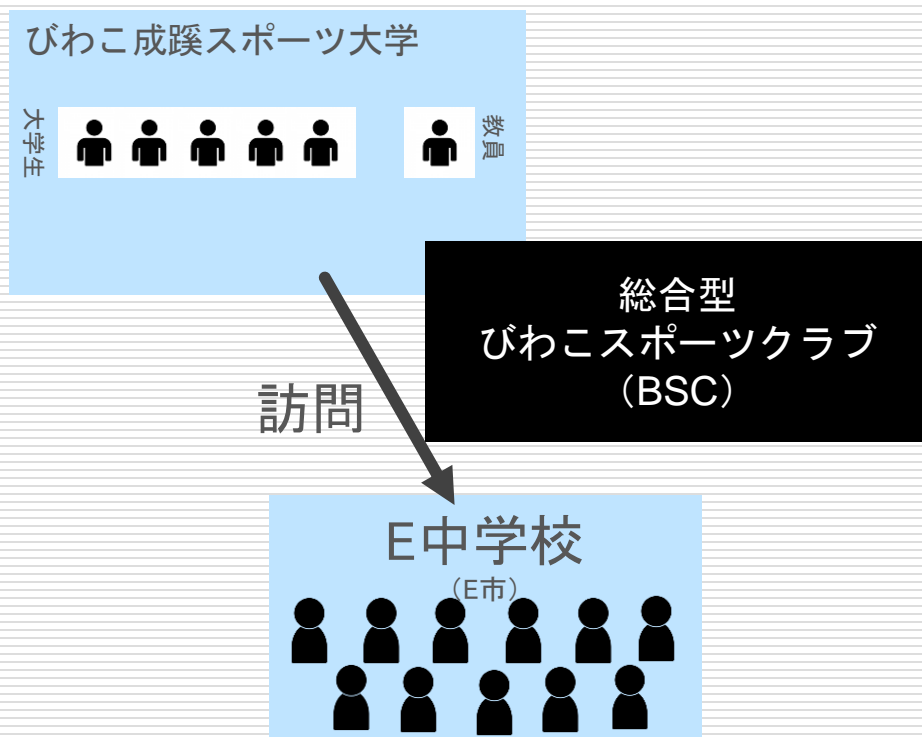
|            | A中学校 | B中学校 | C中学校 | D中学校 | E中学校 | F中学校 |
|------------|------|------|------|------|------|------|
| 生徒数        | 116  | 231  | 27   | 275  | 143  | 276  |
| 野球         | ○    | ○    |      | ○    |      | ○    |
| サッカー       | ○    | ○    |      | ○    |      | ○    |
| バレーボール男子   |      | ○    |      |      | ○    | ○    |
| バレーボール女子   | ○    | ○    |      | ○    | ○    | ○    |
| バスケットボール男子 |      |      |      |      | ○    |      |
| バスケットボール女子 |      |      |      | ○    |      |      |
| ソフトボール     |      |      |      |      | ○    |      |
| ソフトテニス     | ○    | ○    |      | ○    | ○    | ○    |
| 卓球         | ○    | ○    | ○    | ○    |      | ○    |
| 陸上         |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 水泳         |      |      |      |      | ○    |      |
| 柔道         | ○    |      |      | ○    |      |      |
| 剣道         |      |      |      |      |      | ○    |
| ボート        |      | ○    |      |      |      |      |
| 駅伝(秋季)     |      |      |      | ○    |      |      |
| スキー(冬季)    |      |      |      | ○    |      |      |
| 吹奏楽        | ○    | ○    |      | ○    | ○    | ○    |
| 美術         |      | ○    |      | ○    |      | ○    |
| 茶華道        |      | ○    |      |      |      |      |
| 書道         |      |      |      | ○    |      |      |
| 科学         |      |      |      |      |      | ○    |

市内6中学校  
全52部活

うち運動系部活:41

※出典:各中学校ホームページ・滋賀県教育委員会ホームページ(2020年度)

# 実証実験(E中学校)



\* 実施日:2021年12月11日(土) 8:30-11:00

\* 場所:E中学校校庭

\* 指導者:びわこ成蹊スポーツ大学学生  
(陸上部員2名、ソフトテニス部員3名)

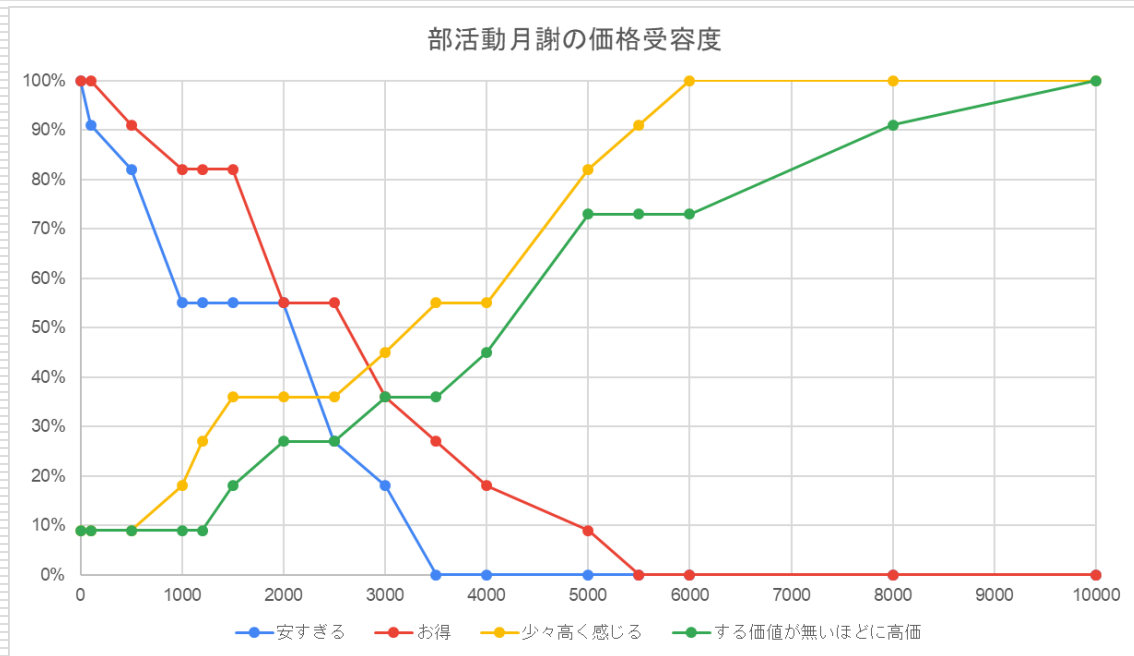
※BSCクラブマネージャー参加  
(現場の管理監督・練習メニュー監修)

\* 参加者:E中学校生徒16名  
(陸上スポーツ部員9名、ソフトテニス部員7名)

\* 調査:顧問(練習中/ヒアリング調査)  
生徒(練習後/アンケート調査)  
保護者(後日/アンケート調査)



# 保護者アンケート結果： 部活動月謝の価格受容度(PSM分析)



**下限価格**  
2,300円

**適正価格**  
2,500円

**妥協価格**  
2,800円

**上限価格**  
3,000円

※高島市内  
運動系全41部活

部員数10名 × 41部活  
× 2,500円/月  
× 12か月

**= 12,300,000円/年  
移行予算**

※PSM: Price Sensitivity Measurement

# コスト(指導者謝金)試算

※交通費・受け皿組織側管理費・消耗品・雑費その他経費含まず。  
※謝金額：民間スポーツ指導者(パートタイム)、部活動指導員派遣時給等に準拠。

●学生指導員1名(3,000円/回) ※2時間指導:時給1,500円 3時間:時給約1,000円  
3,000円 × 週2回 × 4週 × 11か月  
=264,000円/年(1部活あたり)  
運動系全41部活:10,824,000円/年



3,000円 × 週5回 × 4週 × 11か月 = 660,000円/年(1部活あたり)  
運動系全41部活:27,060,000円/年

●指導者(非大学生)1名(6,000円/回) ※2時間指導:時給3,000円 3時間:時給約2,000円  
6,000円 × 週2回 × 4週 × 11か月 = 528,000円/年(1部活あたり)  
運動系全41部活:21,648,000円/年

6,000円 × 週5回 × 4週 × 11か月 = 1,320,000円/年(1部活あたり)  
運動系全41部活:54,120,000円/年



## 理想モデル案

大学がハブとなり、地域の団体と連携した受け皿の創出を目指す

※一部の部活は大学を介さず  
直接に受け皿となる可能性有

総合型地域  
スポーツクラブ

指導/参加

高島市内中学校  
【運動系部活動】

指導/参加

スポーツ少年団  
スポーツ協会

※一部の部活の受け皿となる可能性有

NPO法人びわこスポーツクラブ  
NPO法人TSC（高島スポーツクラブ）

その他関連組織  
（PTAなど）

民間企業

連携協力協定締結済

民間事業者

スポーツスクール事業者  
スポーツイベント会社

本学における受け皿機能

Case1. 学生指導者のみ

Case2. 民間事業者指導者+学生

Case3. 総合型地域SC指導者+学生

Case4. スポ協・少年団指導者+学生

部活動地域移行の  
調整機能を学内に設置

助成金/補助金  
その他支援や助言

経済産業省  
スポーツ庁

高島市

高島市スポーツコンソーシアム（仮称）

# 実践研究② 2022年度

---

経済産業省 実証研究事業

京都市の事例

# 実証内容とその成果

## 市内中学校へ派遣希望調査

a

【8中学校13部活 指導手当 時給2000円＋交通費】

2022年

10月：実証実験（学生の派遣による部活指導）の対象校選定・各種調整

11月：実証実験の実施

12月：実証実験の実施/学生ヒアリング/中学校部員対象アンケート

1月：ヒアリング・アンケート集計/地域移行モデル検証

2月：地域移行モデル検証

約2カ月の  
指導

## 実証実験の取組の様子(京都市) びわこ成蹊スポーツ大学の学生による指導



開晴小中学校 (バスケットボール)



開晴小中学校 (バレーボール)



八条中学校 (陸上・野球)



・研修会

(実施:2022年12月12日)

講師:黒澤寛己(本事業調査担当・びわこ成蹊スポーツ大学教授))

---

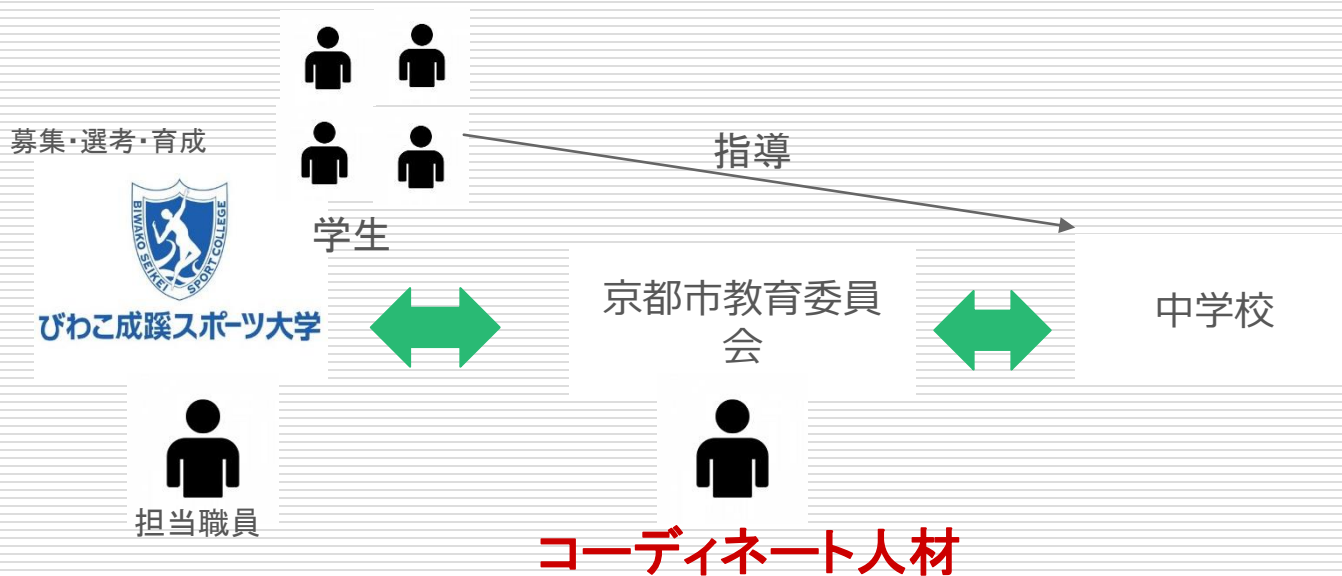
## 各中学校の部活単位で指導する学生がグループ発表

- 練習計画立案方法
- 実際の練習・指導内容
- 指導したうえでの気づきや改善点
- 中学校側との連絡調整の頻度や内容 など



# びわこ成蹊スポーツ大学モデルの充実・継続

⇒学生の選考・マッチング（学内） ⇒中学へのコーディネート・マッチング（教育委員会）  
⇒派遣前講習  
⇒指導派遣開始⇒中間報告会⇒指導継続⇒最終報告会



# 実践研究③ 2023年度

---

## スポーツ庁 実証研究

令和5年度地域部活動推進事業(スポーツ庁委託事業)に係る京都市立中学校における休日運動部活動管理運営等業務

京都市からの委託事業



# 【実践期間】実践期間を拡大(2022年度約2ヶ月間→2023年度約7ヶ月間) 令和5年8月～令和6年2月

【9中学校18部活 派遣学生23名指導手当 時給2000円＋交通費】

| 月    | 4月 | 5月              | 6月    | 7月             | 8月             | 9月             | 10月   | 11月            | 12月            | 1月    | 2月             | 3月 |
|------|----|-----------------|-------|----------------|----------------|----------------|-------|----------------|----------------|-------|----------------|----|
| 業務内容 |    | ・教育委員会と派遣について相談 | ・学生募集 | ・学生選考<br>・保険契約 | ・学生派遣<br>・取材調整 | ・勤務管理<br>・雇用契約 | ・勤務管理 | ・勤務管理<br>・取材調整 | ・勤務管理<br>・現場訪問 | ・勤務管理 | ・勤務管理<br>・報告業務 |    |
|      |    | 教育委員会との調整       |       |                |                |                |       |                |                |       |                |    |

中学生へのアンケート調査・派遣学生へのアンケート調査

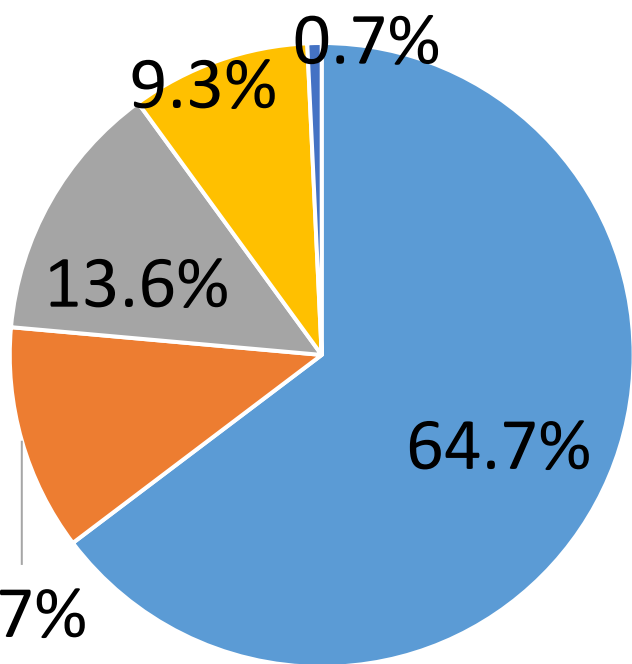


## 京都市の取組

令和5年度 教員向けアンケート調査から



### ◆部活動の活動日に関する負担について



- 平日休日ともに負担感は大きい
- 休日の負担感は大きいですが、平日の負担感は小さい
- 平日休日ともに負担感は小さい
- 負担感に関してはわからない

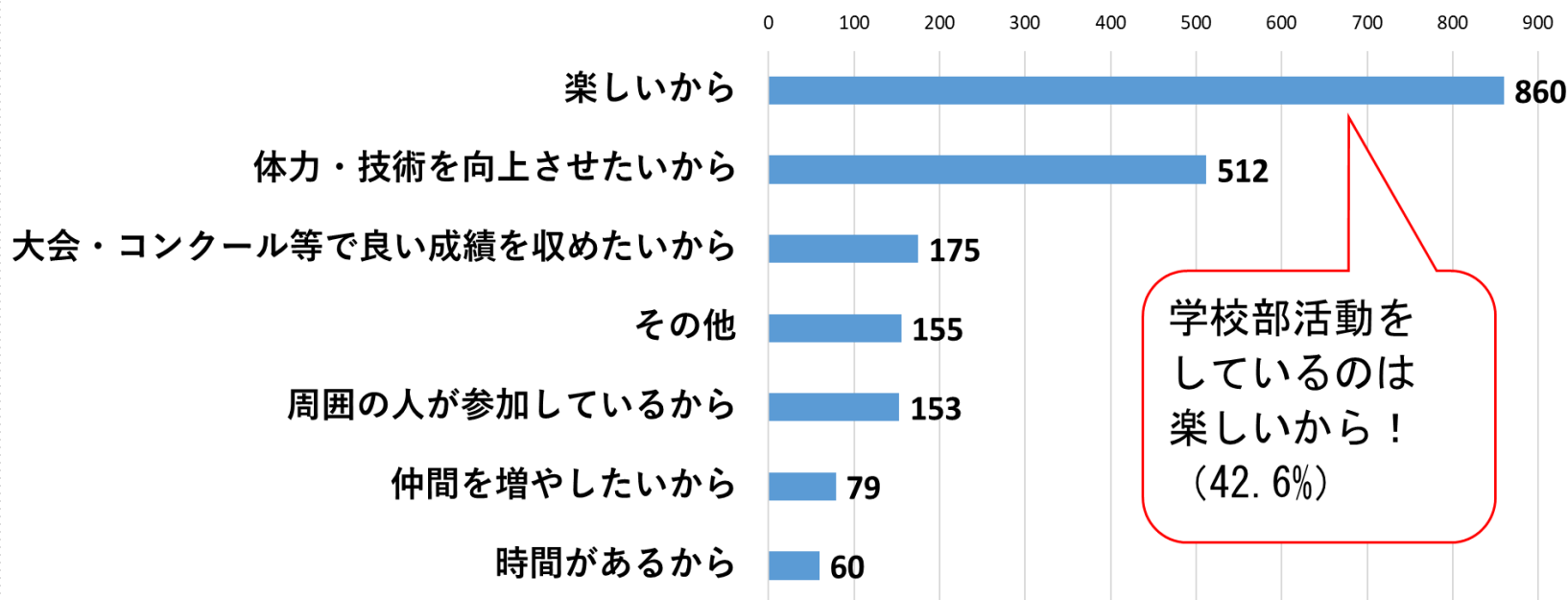
# 京都市の取組

## 令和5年度 生徒向けアンケート調査から



学校の部活動に入部した理由（2,017人）

無回答者23人は非掲載



# 中学校部活動外部委託事業

○びわこ成蹊スポーツ大学  
「学校管理下」

- ・主たる指導者  
学校教員(顧問)
- ・緊急時対応  
学校長・学校教員
- ・損害賠償請求先  
京都市(学校設置)
- ・保護者対応  
各学校  
京都市教育委員会

○A株式会社  
「学校管理外」

- ・主たる指導者  
A社常勤社員
- ・緊急時対応  
A社常勤職員
- ・損害賠償請求先  
A社
- ・保護者対応  
A社

# 京都市部活動実証事業 委託仕様書 (学校管理外の活動)

## 「受け皿」組織の業務内容

### ○配置人員

統括責任者1名(常勤雇用者)→市内事務所

主任指導者1名、副主任指導者1名→学校現場

### ○必要業務(一部抜粋)

保護者連絡、現地対応、保護者説明会、保険(民間)手続き、アンケートの実施、個人情報保護、配慮を要する生徒への対応、外国語の対応、事故、怪我への対応、災害時の対応、市内の事務所、実績・事業報告書

「受け皿」としての負担が大きい。  
収益事業としての採算が難しい。



# 今後目指すべき部活動移行タイプ

---

## ①学校運動部主体型(学校管理下)

外部指導者、部活動指導員を派遣  
保護者・卒業生などのボランティア

## ②学校・地域連携型(休日のみ学校管理外)

曜日単位(休日のみ)、種目単位での移行

## ③完全地域移行型(完全学校管理外)

神戸市(コベカツ)・京都市

---

# 部活動地域移行の要点整理

## 政策・ビジョン

- ①スポーツの価値を高め、学校・地域でその価値を共有する。
- ②学校文化として定着した部活動の教育性を維持する。

## 施策・ミッション

- ①生涯スポーツの基盤作り
  1. 学校で運営できる部活動⇒主に教員が指導する。
  2. 学校で運営することが難しい部活動⇒段階的に地域と共有する。

- ②競技スポーツのグローバル展開
  1. 各協会・連盟による、強化拠点の整備
  2. ジュニアからシニアまでの一貫指導システムの構築

## 事業・プロジェクト

- スポーツの価値を高めるために
- ボランティアコーチ⇒有償コーチへ
  - 体育施設⇒スポーツ施設へ
  - 根性練習⇒科学的トレーニングへ
  - 見舞金制度⇒補償制度へ
  - 各中学校の部活動数の見直し

滋賀県のスポーツにおけるロールモデル

⇒中学生が目指すべき人材⇒「キャリア教育」

---

ロールモデルとは、自分との類似性を持ち、またその人物を尊敬し、その人のようになりたいと望む対象のことを指す。

滋賀県の子どもたちにとってのロールモデルとは？



# 京都市スポーツの殿堂（伝道）事業

---

京都市では、平成22年度に「京都スポーツの殿堂」事業を創設し、毎年度、京都にゆかりのあるトップアスリートの中から選考のうえ、殿堂入りとして表彰を行っている。

西京極総合運動公園内の市民スポーツ会館に「京都スポーツの殿堂ホール」を設置し、殿堂入り者の記念品を展示している。

# 歴代の殿堂入りアスリート

## 京都市スポーツの殿堂 受賞者(一部抜粋)

---

### プロスポーツ選手

吉田義男氏(野球)、衣笠祥雄氏(野球)

釜本邦茂氏(サッカー)、桧山進次郎氏(野球)

伊達公子氏(テニス)、岡島秀樹氏(野球)

小田美岐氏(ゴルフ)、小西美加氏(女子プロ野球)

福澤達哉氏(バレーボール)、久保隼氏(ボクシング)

# オリンピック選手

---

朝原宣治氏(陸上)、

奥野史子氏(シンクロナイズドスイミング)、

大村加奈子氏(バレーボール)、

田本博子氏(ソフトボール)、

太田雄貴氏(フェンシング)

野口みずき氏(陸上)、

立花美哉氏(アーティスティックスイミング)

# 障がい者スポーツ

---

寒川 進氏(障がい者陸上)

北村 友里氏(障害者水泳)

坂野 晴男氏(車いす駅伝指導者)

一ノ瀬 メイ氏(パラ水泳)

# スポーツ指導者等

---

水野 彌一氏 (アメリカンフットボール)

山口 良治氏 (ラグビー)

藤田 信之氏 (陸上)

坂田 好弘氏 (ラグビー)

作本 信夫雄氏 (バスケットボール)

平尾 誠二氏 (ラグビー)

濱田 美栄氏 (フィギュアスケート)

# 滋賀県国スポ・障スポの ソフト(無形)レガシー(スポーツ殿堂)

---

## 滋賀県国スポ・障スポの会場

- 平和堂HATOスタジアム  
(彦根総合スポーツ公園陸上競技場)
- プロシードアリーナHIKONE  
(彦根市スポーツ・文化交流センター)
- 滋賀ダイハツアリーナ(滋賀アリーナ)
- ウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)

# 主な引用参考文献・資料

---

- ・文部科学省(2017)中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説
- ・大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所(2022)  
大規模自治体における地域資源・ネットワークを活用した部活動地域移行の  
モデル形成・検証
- ・大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所(2023)  
大学リソースを活用した部活動の地域移行の受け皿整備の検証
- ・スポーツ庁(2024)部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行と地域スポーツ  
環境の整備に関する最近の動向
- ・日本体育・スポーツ政策学会(2024)学会大会会員企画セッション配布資料
- ・吉田浩之(2009)部活動と生徒指導 学事出版
- ・黒澤寛己・横山勝彦他(2008)ライフスキル教育 昭和堂